

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京都医学総合研究所

2 実施日時

令和元年7月12日(金) 11時28分～11時44分

3 出席者

- ・団体側出席者：田中理事長、正井理事、池上事業推進担当部長(福祉保健局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

がん、ゲノム研究、思春期など、いくつかのキーワードがあると思うが、特に力を入れている点などについてはいかがか。

○田中理事長

統合失調症と遺伝子の関係、カルボニルストレスというが、それが思春期にたまるという事実を去年発見した。統合失調症の予防に向け、今集中して研究している。

コホート研究に関して、医学研では独自に3,000人を対象に断続的に調査している。コホート研究では脱落する子供が非常に多いが、当研究所はバースデーレターを手書きで書くなどの努力により90%超を維持しており、非常に高く評価されている。

○遠藤総務局長

研究員の確保については、どのようなことに気を遣っているか。

○田中理事長

高い研究水準を維持するためには、研究環境を整えることが大事であり、多くの研究員が使えるような形で最新の研究機器を揃えている。さらに、サイエンスカフェや、高校生のためのプログラムなどいろんなことをやってい

る。

病院との連携に関しては、病院等連携研究センターというのを作って支援を行っている。今、知財が非常に問題になっているが、我々の研究所は統合前の臨床医学総合研究所の時代から知財に注力している。都立病院や保健医療公社に対しても、我々がいろいろなプログラムを提供している。共同研究とともに知財活動のノウハウも広め、連携を強めていきたい。そして東京都全体の医療のレベルを上げたい。

都立病院等の医師が学位を取りたいけれどシステムがないといった際、我々と共同研究を組むことによって博士号を取得してきた。個人の医師のレベルを上げることについても協力していきたい。高い水準の研究を病院の先生と一緒にやる事で、治療に結びつく大きな発展があるものと考えている。

○小池知事

都立病院等としっかりと連携をとりながら取り組んでいてもらいたい。